

被爆 80 年 核兵器の非人道性を学び、伝えるために

「被爆 80 年 核兵器をなくす国際市民フォーラム」の開催にあたり、原爆被害がどのようなものであったか、核兵器がなぜ非人道的兵器といえるのかについて深く理解するために、日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）による 2 つの文章を紹介します。

■日本被団協編『被爆者からあなたに』岩波ブックレット（2021 年 7 月）より

1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、広島市の上空 600 メートルで、3 日後の 9 日午前 11 時 2 分、長崎市の上空 500m で、アメリカ軍が投下した原子爆弾が炸裂しました。爆発で生まれた火球は摂氏数百万度に達し地表でも 3000°C から 5000°C となり、強い熱線が爆心地から 2 キロメートル余りの地点でも火災を引き起こし多くの死傷者を出しました。爆発の直後に起きた爆風によって、爆心から 1.5 キロメートル内の木造家屋は一瞬にして倒壊しました。

原爆は、それまでの兵器とは比較にならないほどの強い熱線、爆風を起こすだけでなく、さらに決定的な違いは、人間の細胞を破壊し、遺伝子を傷つける「放射線」を出したことです。広島はウラン、長崎にはプルトニウムが使われ、これらの原子が核分裂するエネルギーを利用したものでした。その恐ろしさは、被爆時の被害の壊滅的な大きさだけでなく、その影響が長く続くことにあります。

原爆は閃光とともに 2 つの街を一瞬に破壊し、無差別に大量殺戮しました。その年の末までに、広島 14 万人余、長崎 7 万人余の人々が亡くなりました。かろうじて生き残った人々も、原爆による死への不安のなかで生きていくことを余儀なくされました。

あの日、原爆にあった人たちは、何が起きたのか、まったくわからないところから出発しました。「気がついたら地面にたたきつけられていた」、「近くのガスタンクに爆弾が落とされたと思った」という証言は少なくありません。そして、気がついてみて、この世のものとは思われない光景に遭遇しました。

■「原爆被害者の基本要求」（1984 年 11 月）より

原爆は、広島と長崎を一瞬にして死の街に変えました。赤く焼けただれてふくれあがった屍の山。眼球や内臓のとび出した死体。黒焦げの満員電車。倒れた家の下敷きになり、生きながら焼かれた人々。髪を逆立て、ずるむけの皮膚をぶら下げた幽霊のような行列。人の世の出来事とは到底いえない無残な光景でした。

わが子や親を助けることも、生死をさまよう人に水をやることもできませんでした。人間らしいことをしてやれなかったその口惜しさ、つらさは、生涯忘れることができません。

いったんは死の淵から逃れた人も、また、家族さがしや救援にかけつけた人たちも、放射能に侵され、次々に髪が脱げ、血をはいて、たおれていきました。

生き残った人たちも「原爆」を背負いつづけています。

「家もなく無一物になり、何一つ楽しいことはなく、生けるしかばねです」「一生病臥の毎日です」「働こうにも人並みに働けない。人からはなまけ者と言われるが、こんな体にしたのは誰なのか」。結婚・就職などの差別をおそれ、被爆者であることを隠し続けている人たちも少なくありません。

ちょっとした体の不調でも、原爆のせいではないかと思わずらい、あるいはまた、いつ、原爆症が出るか、子や孫への影響はーと、胸に爆弾を抱いたような毎日なのです。

原爆で肉親を奪われた遺族も、悲しみと恨みの40年を生きてきました。

「身寄りが一人もいなくなり、故郷も亡くなりました」「子供を助けられなかった親の悲しみは、死ぬまで続きます」「原爆の落ちた日から影も形もなくなった主人のことを忘れよというのは酷です。今でもきのうのこのように思い出します」「姉は、死ぬまで毎日が病気との闘いでした」

原爆は、閃光とともに2つの街を壊滅させ、無差別に大量殺傷しました。人類が初めて体験した核戦争の“地獄”でした。

原爆は、今にいたるまで、被爆者のからだ、くらし、こころにわたる被害を及ぼし続けています。

原爆は、人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許しません。核兵器はもともと、「絶滅」だけを目的とした狂気の兵器です。人間として認めることのできない絶対悪の兵器なのです。

===

2024年のノーベル平和賞を受賞講演で、日本被団協の田中熙巳代表委員は、被爆者らが「自らを救うとともに、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」との決意のもと「核兵器の廃絶と原爆被害に対する国の補償」を求めて運動を進めてきたことを語りました。そして、日本で被爆して母国に帰った朝鮮半島の被爆者や、戦後アメリカ、ブラジル、メキシコ、カナダなどに移住した多くの海外在住の被爆者と連帯して運動してきたことについても語っています。

こうした被爆者の証言に耳を傾け、その経験と運動に学んでいきましょう。そして、核兵器の製造、実験、使用を含む核兵器のあらゆるプロセスで苦しめられてきた世界中の被害者と連帯して、核兵器の非人道性への理解を深めながら、核兵器をなくすために力を合わせていきましょう。

2025年2月

核兵器をなくす日本キャンペーン

<https://nuclearabolitionjpn.com/>